

日本語における主要部を持たない短縮語形成  
～アイドルマスターのカップリング名を用いた複合語短縮の分析～

0. 要旨

主要部を持たない複合語短縮は、音韻的な制約を大きく受けて形成される。Kumagai & Kawahara(2018)による架空のコンビ名を用いた研究によると、主要部を持たないコンビ名が形成される際は、鼻音や同じ CV の連続が避けられる傾向にあるという。しかし、架空の語ではなく人名同士の実在する複合語短縮の例からその形成過程や傾向を分析した研究は未だない。そこで、本論文では実例を用いて主要部を持たない複合語短縮形成の傾向を割り出すために、女性同士のカップリング名を用いて分析した。その結果、4モーラのカップリング名形成の場合は同一の調音点を持つ音や母音の連続が避けられることや、無声音や調音点を後ろに持つ要素が語頭になりやすい傾向にあることがわかった。また、原語を維持するために限定的な条件下において5モーラ以上のカップリング名も許容することがわかった。カップリング名は語形成に言語学的観点以外の要素も入るため分析が難しいが、今後はカップリング名形成に関わった制約を一般化におとしこむことが望まれる。

1. はじめに

◆カップリング名とは

ゲームや小説、漫画などの愛好者が、特定の登場人物二人に焦点を当てて二次創作を行う際に使用される名称。基本的に登場人物二人の名前の頭の2音を抜き出し、それを結合させて4音のカップリング名(以下、CP名と表記)が作られる。

(例. ちはや × りん → ちはりん)

◆女性同士 of CP 名の特徴

どちらのキャラクターの名前が左側(前部要素)になるか右側(後部要素)になるかといった順番に大きな意味を持たず、概ね語感によって決められる。

◆本研究の目的

女性同士 of CP 名という主要部を持たない複合語短縮の例を用いて、日本語の複合語短縮の音韻構造の分析に寄与すること。

2. 従来の分析の問題点

◆先行研究

## Kumagai & Kawahara (2018)の“Stochastic Phonological Knowledge and Word Formation in Japanese”

### ◆先行研究の概観

『マナカナ』『みうみま』などのコンビ名をもとに、架空のコンビ名を用いて83名の日本語の母語話者にどちらがコンビ名として相応しいか二択強制選択法で実験を行った。(例. 『モカバナ』vs 『バナモカ』)

その結果を分析したところ、鼻音や同じCVの連続が避けられる傾向にあり、聞こえの尺度が小さい音が語頭にくる傾向にあることがわかった。

### ◆先行研究の問題点

- ・複合した語の境界や語頭の音のみに注目しており、リズムを考慮していない。
- ・架空のコンビ名を用いたため、実在する5モーラ以上の語についての分析が行われていない。
- ・鼻音のみに注目しており、その他音の性質の連続回避について検証していない。

## 3. 女性同士のCP名を用いた分析

### ◆使用したデータ

イラストコミュニケーションサイト pixiv 百科事典の『アイドルマスター』『アイドルマスターシンデレラガールズ』『アイマス越境』の記事より収集した389のCP名の実例。

### ◆分析の方法

本論文で収集したCP名のモーラ数を調べたところ、4モーラのCP名が全体の80%以上を占めており、5モーラ以上のCP名との分布に大きな隔たりがあったため、4モーラとそれ以外とで分析を分けて行った。また、2であげた先行研究の問題点を解消するために、リズムや子音、調音法まで幅広く分析した。

### 5モーラ以上のCP名:

- ①CP名の形態に着目し、分類分けする。
- ②各形態を導くような規則を導出する。
- ③②で導出した規則を最適性理論に基づいて再考し、制約をつくる

本論文では以下の9つの制約を使用した。

- a. 原語維持制約(原語維持)
- b. 前部母音メロディ維持制約(前V維持)
- c. 外国原語維持制約(外国維持)
- d. 単発交替制約(単交替)
- e. 前 $\leq$ 後制約(前 $\leq$ 後)
- f. 同一母音連続回避制約(同V回避)

g. 強弱格制約(強弱)

h. 5 モーラ以下制約(5≧M)

i. 3 フット以下制約(3≧F)

④③で作った制約の優先順位を定める。

例) 原語維持制約 vs 同 V 回避制約 (入力: 興水幸子 × 川島瑞樹)

i	興水幸子 × 川島瑞樹	原語維持	同V回避	ii	興水幸子 × 川島瑞樹	同V回避	原語維持
☞	こしみずき		*		こしみずき	*!	
	みずさちこ	*!		☞	みずさちこ		*

③で立てた原語維持制約(原語はそのまの形を維持されなければならない)と、同 V 回避制約(5 モーラ以上の CP 名で同じ母音が連続してはいけない)のどちらが CP 名形成において優先されるかを考える。

同 V 回避制約に違反するが原語維持制約には従う「こしみずき」と、原語維持制約に違反するが同 V 回避制約には従う「みずさちこ」という CP 名の出力候補を比較すると、実際に存在する正しい CP 名は「こしみずき」の方であるため、同 V 回避制約よりも原語維持制約の方が優先度が高いことがわかる。

上記のような方法で、制約の優先順位を定めていった。

#### 4 モーラの CP 名:

4 モーラの CP 名は、基本的に語頭 2 モーラ同士が結合されてつくられるため、人名がなぜその順番で結合されたのか? という点に着目して分析した。

①実在する CP 名と、その人名の前後を入れ替えた CP 名のデータを用意する。

例) たかね × まこと → たかまこ \*まことか

②カップリング名のデータを子音や母音、CV、調音点、調音法で一般化する。

例) 子音による一般化: たかまこ → /tkmk/, \*まことか → /mktk/

③形態素境界(2, 3 モーラ目)、語頭に来る音(1, 3 モーラ目)、3つの音の並び(1-3 モーラ目、2-4 モーラ目)の性質を抜き出して集計し、比較する。

例) 形態素境界: /k//m/, \*/k//t/

#### 4. 結論

##### ◆5 モーラ以上のカップリング名

- ・フットが強弱格のトロキーで構成されている。
- ・複合語アクセントで発音される。
- ・最適性理論を用いて、外国維持 >> 3≧F、強弱、前 V 維持 >> 5≧M >> 単交替 >> 原語維持 >> 同 V 回避 >> 前≧後 の制約の順位に従ってカップリング名が作られる。

例) 入力: ナターリア × ライラ の評価表

	ナターリア × ライラ	外国維持	3 ≧ F	強弱	前V維持	5 ≧ M	単交替	原語維持	同V回避	前 ≧ 後
☞	ナタライラ							*	**	
	ナターイラ			*!				*	*	
	ナターライラ			*!		*		*	*	
	ナターリライラ			*!		*		*	**	*
	ライナターリア			*!		*			*	
	ライターリア			*!		*		*		
	ナターリアライラ		*!	*		*			**	*
	ライラナターリア		*!			*			**	
	ラターリア	*!		*				*	*	

#### ◆4 モーラのカップリング名

- ・フットが弱強格のアイアンブで構成されている。
- ・平板型アクセントで発音される。
- ・同じ調音点をもつ子音の連続が避けられる。
- ・形態素境界では同じ母音の連続が避けられる。
- ・無声音や、もう一方の要素より相対的に調音点が後ろになる子音や母音がカップリング名の頭になる傾向がある。

#### 5. 先行研究と本研究の比較

- ・先行研究では形態素境界における鼻音の連続が避けられるという結論であったが、本研究でそのような傾向はみられなかった。
- ・鼻音だけでなく調音法の連続まで範囲を拡大したが、それでも同じ調音法の連続を避ける傾向はみられなかった。
- ・一方で同じ調音点の連続、母音の連続は避けられていることがわかった。
- ・先行研究で示された聞こえの尺度の小さい音が語頭にきやすいという傾向は、本研究でもみられた。
- ・しかし本研究では、聞こえの尺度が通常音節内部の構造決定に用いられる指標であることを考慮し、それよりも無声音や調音点が相対的に後ろになる音が語頭にきやすいという傾向を示した。

#### 主要参考文献:

- Gakuji Kumagai & Shigeto Kawahara(2018). “Stochastic Phonological Knowledge and Word Formation in Japanese” 『言語研究』 153 巻, pp. 57-83
- 窪菌晴夫(2006). 『岩波 科学ライブラリー 118 アクセントの法則』. 岩波書店, pp. 22-28
- 窪菌晴夫(2010). 「語形成と音韻構造：短縮語形成のメカニズム」『国語研プロジェクトレビュー』 第3号. p.32